
私意的な家族

SEI

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私意的な家族

【著者名】

ZZマーク

N7583S

【作者名】

SEI

【あらすじ】

正反対な性格の両親とその子供のお話。
よろしければ感想お願いします。

恣意的な家族

あるところに一組の夫婦がいました。二人の性格は正反対といつていよい程異なった夫婦でした。

旦那さんの名前は純一。

考えるよりも前に行動してしまったような直情的な性格。座右の銘は「筋肉は裏切らない」体育会系の熱血漢です。

奥さんの名前は咲子。

石橋を叩いて渡るような理知的で冷静な性格。座右の銘は「ペンは剣よりも強し」文化系の学問主義です。

なんの因果かお互いに惹かれ合つた二人は結婚し、やがて子供が出来ました。

子供の名は詩歌しきか

二人はその正反対な性格ゆえ喧嘩をする事も少なくなかつたですが、互いに子供を愛しても幸せに暮らしていました。

そして二人の子供（詩歌）が小学生になつた時の事です。二人は今までで一番激しい言い争いをしました。それはそれは激しい言い争いでした。

二人は正反対の性格でしたが一つだけ共通点がありました。一つは互いに独善的で頑固などこる。一つは詩歌の事を深く愛している事です。

純一は言いました。

「詩歌には野球を習わせよう。団体競技は協調性や人と協力する喜び、何より自分自身に自信持てるようになり向上心が高まつたり、他にも色々と大事な事が学べる。俺がそうだったんだから間違いない」

それを聞いて咲子は鼻息荒く言い返します。

「女の子なのに野球なんて冗談じゃないわ。それより詩歌には勉強をさせないと。小学生になつたんだから塾に行かせましょっ」

一人はお互いに一步も引かず、言い争いはそれはそれは長く続きました。詩歌はそれが嫌で嫌で仕方がありませんでした。一人の言い争いは詩歌の耳には、悪意を含んで憎しみあつていてるよつにしか見えません。

一人の話し合いは進展する事なく、争つ事にも疲れた一人は詩歌に尋ねます。

「詩歌、お前はどうちが正しいと思つ？ 詩歌は野球とお勉強どっちがしたい？」

「詩歌ちゃんはママの味方よね？ 野球なんかよりお勉強の方が大事だつてわかるわよね？」

「野球の方が」

「お勉強の方が」

「良いでしょ？」

一人は声を重ねて詩歌に尋ねました。

詩歌はそのどちらにも答える事が出来ませんでした。正反対な性格をした両親でしたが詩歌はパパの事もママの大好きでした。なので、どちらか一方の肩を持つなんて出来ません。ましてやどちらが正しいのかなんて聞かれても詩歌にはわかりません。

結局その日は話し合いの決着はつく事なく、この話は延期する事になりました。

その日の夜、詩歌はベッドの上で私にむかつて尋ねました。

「ねえカミサマ、私はどうしたら良いのかな？ どうしたらパパとママは仲良くしてくれるかな。二人の言つてる事はどうちが正しいのかな。私はどうちを選ぶべきなのかな」

真摯に悩む詩歌をとても哀れに思い、私は詩歌に言いました。

「安心しなさい詩歌ちゃん。あなたのパパとママはどちらも正しい。二人とも貴方の事を想つての事なのです。そんなに悩まないでどちらでも好きな方を選びなさい」

「パパとママ……どっちも正しいのか。ありがとうございます。」
そう言って詩歌は眠りにつきました。

翌日、詩歌は純一と咲子にこう言いました。

「私野球もお勉強もどっちもしたい。パパもママもどっちも正しい
と思うから」

「そつかそつか！」

「そうねそうね！」

詩歌がそう言つと一人は嬉しそうに声をあげました。二人が仲良
くなつて詩歌も笑顔になりました。

それからしばらく後、再び言い争いが始まりました。その内容は
前回と同じ事でした。

純一は言いました。

「詩歌に音楽をやらせよう」

咲子は言い返しました。

「そんな事よりパソコンをやらせないと」

二人の言い争いは続きました。一人の言い争いは詩歌の口には、
悪意を含んで憎しみあつてているようにしか見えませんでした。

詩歌は再び言いました。

「私どっちもやる」

すると一人は言い争いを辞めて再び仲良くなりました。

それからまたしばらく後、再び言い争いが始まりました。詩歌は
その言い争いも同じようにして解決させました。

同じような事は何度も繰り返されました。

そして…

詩歌の日常はとても忙しいものになりました。

月曜日は……英会話とスイミング

火曜日は……野球とピアノ

水曜日は……塾と書道教室

木曜日は……塾とパソコン教室

金曜日は……バレエと器械体操

土曜日は……野球と英会話

日曜日は……野球と家庭教師授業

毎日毎日気が休まる事ない日々を詩歌は過ぐしていました。やがて詩歌に限界が訪れました。

詩歌は私に縋りつきむせび泣きました。

「私ももうヤダよ……毎日毎日疲れて大変で、本当はどれも楽しくないの。忙し過ぎてどれもちゃんと出来なくて皆より下手くそだし辛くてたまんないの。ねえカミサマ、私どうしたら言いの？」

それを聞いて私はとても哀れに思い、力を貸してあげる事にしました。

「泣かないで、詩歌ちゃん。大丈夫、私が協力してあげるからね」「ありがとうカミサマ」

すると詩歌は安らかに微笑み寝入りました。

翌日。私は純一と咲子を消してあげる事にしました。

詩歌は親族の人達と一緒に病院の待ち合いで室にいました。おじいちゃんやおばあちゃんと一緒にです。皆して不安気な面持ちで待ち続けるいると、やがてお医者さんが出て来ました。

そして「残念ですがお亡くなりになりました」と言いました。おじいちゃんもおばあちゃんも一斉に泣き出していました。
しかし詩歌は違いました。

「よかつた。これでもう習い事しなくて良いんだね。本当に良かつた……」詩歌は心底ほつとしていました。

お医者さんが尋ねました。

「君は一体どうやって両親を殺したんだい？」と

すると詩歌は微笑んで返事を返しました。

「ふふつ、秘密です。カミサマとの約束だから」

私意的な両親そつくりな性格の詩歌ちゃんなのでした。

(後書き)

友達に見せたら週刊ストーリーランドみたいだ、と言われました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7583s/>

私意的な家族

2011年5月6日01時25分発行